

編集月旦 2017年1・2月号

★「月刊丈風」のこれまでの経緯をひとたび整理して、これからの活動へと繋ぐ『ニッポン発二一世紀オリジナル～「三世代平等型長寿社会」～』を論じていきます。「高齢社会対策基本法」（1995年）・「高齢社会対策大綱」（1996年）から20年の検証をおこないつつ、これからの20年を見据えての論考です。「基本法」（前文）が目標として呼びかけた「長寿をすべての国民が喜びの中で迎え、高齢者が安心して暮らすことのできる社会」の達成をめざして、高齢者自身がどう社会参加するかの提案です。

★「ニッポンは世界の宝石鉱脈である」（はじめに）と本稿は臆せずにいいます。

なぜとって、はるかな遠い日に、東に向かった文化の波は漢・韓を通じて日本に達して開花し、西に向かった技術の波はローマ・西欧・米国を経てはるかに遠い日本に至って開化し、たどりついて開花・開化しなかった数多くのものは、この島のどこかに埋もれていて、それらは宝石鉱脈となって深く浅く横たわっているはずだからです。

☆本稿のような「漢字かなカナROMA字まじり」の日本語は、世界の文化を撚り合わせ凝縮して総合していますし、「和食」をはじめ衣・食・住の日常のありようは、世界の技術の長所を融け合わせて統合を示しています。ご承知のように、わずかな特例のほかこの国からは西へも東へも出て行った形跡がないからです。

☆いまや東方にも西方にもパーツ・アンノウン（知られざる地）はどこにもなくなりました。陸からも、海からも、空からも、最終便は着いてしまったのですから、もはや待っていても何もやってこないのです。そんな溜め込み状況は、高齢者なら見て、聞いて、触れて、気づいていること。今、「ニッポンは世界の宝石鉱脈である」と臆せずにいえるのは、子午線と卯酉線を重ね合わせて、二一世紀初頭の世界を航空写真のように仔細に観察したうえで、いちやく確認したのが本稿だからです。

☆今、この国で「歴史的正午」の明るい陽射しを浴びているのは、若い女性やIT青年ばかりではなく、3400万人に達して史上初の「高齢世代」を形成しながら、資産と年金と多彩な趣味（しごと）に恵まれて暮らしているアクティブ・シニアのみなさんです。その暮らしの日また一日がニッポン発二一世紀オリジナルの重要な宝玉のひとつである「三世代平等型長寿社会」を磨きあげているのです。正午の陽射しは明るい、いつもと変わらないというのは、それを意識していないからです。

★今、話題の「憲法」改定とくに第9条は、前世紀の世界大戦の戦禍への反省に立って国際平和の旗印として掲げたものであり、日本のものでありながら日本を越えた存在です。そのままあと30年を護持しつづけ、2047年に国際的オベイションを受けて「日本国憲法制定100年記念式典」をおこなって、二一世紀の国際平和の礎にすべきでしょう。外に仮想敵を想定し、「軍隊」を書き加えるなど、なすべきことではありません。

★一人ひとりが長寿を喜べる「日本長寿社会」の達成とアジアに住むだれもが等しく豊かさを享受できる「アジアの共生」は、ふたつながら平和の証であり、高齢者の課題であり、本誌の目標です。（編集人 記）

